

〔科目名〕 開発経済学—貧困(束縛)からの自由を求めて —映画・ビデオをみて“貧しさ”について共に考えてみませんか—	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 大 場 裕 之 Oba Hiroyuki hooba@reitaku-u.ac.jp	〔オフィス・アワー〕 時間:集中講義中、いつでもOK 場所:教室、教員控室	〔授業の方法〕 講義・演習
〔科目の概要〕 - この科目では、開発経済学(近代経済学)が前提とする人間観(合理的経済人)・生き方を問い直し、「共創」の視点から、<u>新たな判断軸(共創マインド)を身に着けること</u>を狙いとする。 - この目的のために、ビデオ教材(DVD 映画など)を用いて、日本や世界を「共創空間」で共に旅をしながら、旅先の人々を見ながら、クエスチョンを探し、共創空間開発技法(略称CSD)によって、その人たちと向き合い、彼らを「鏡」として日本人や自分の生き方を問い直す。 - 旅先としては、日本(青森県)や、成長著しい南アジア(インド・ブータン)とする。「自由」、「豊かさ」、「幸福」、「健康」、「飢え渴き」などをキーワードとして、貧しき経済人の生き方を具体的に考える。 - この科目で実践する「共創」の旅を通じて、「経済人(の合理性)」の魅力と落とし穴に気づき、共創スキルを身に着け、「共創人」として、日々の生き方の質、人生の質を高めるヒントを掴むことが期待されている。		
〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔学んだことは、何に結びつくか〕 ・この科目は、経済・経営学や心理学、開発論、モチベーション論、コミュニケーション論、意思決定論、ライフスタイル論などと関連しており、一つの専門分野だけでは、解決できない問題を取り上げる。 ・学んだことは何に結びつくのか？ ① 「共創マインド」を習得することによって、日々の生き方・生活の質を引き上げ、人生の様々な局面における価値判断や意思決定をする時に役に立つ。 ② 「共創マインド」を習得した人財として、将来のあらゆる職業(国際機関、国、地方団体、民間企業、NPO機関など)に結びつき、経済開発だけではなく、商品開発、人材開発、地域開発、社会開発、モチベーション開発などのプロフェッショナルとして、また問題発見・問題解決能力を有する<共創>エキスパートとして活躍できる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 4つのポイント - 経済合理性の視点(1+1=2)を吟味し、「共創的視点」を持つために、CSD技法を実践すること。 「共創空間」でキャッチボールしながら、具体的な問いを発見し、1+1=2 だけではない答えを探究すること。 - 貧しき経済人の考え方・感じ方を CSD 技法によって、具体的かつ客観的に「見える化」し、どこに問題があるのか、共に発見し、その原因と解決策を明らかにするスキル(価値判断力、問題発見・解決力、コミュニケーション力などコア・ライフ・スキル)を習得すること。具体的には、聴く耳を持てるようになること、自己表現力を身につけることができること、他者との協働による“気づき”が可能となること、プレゼンテーション能力およびリポーティング能力を磨くこと。 「共創空間」で共有化された問題を考えることにより、学ぶことの意味や意義が明確となり、自分の生き方と向き合うことによって、生きる意欲が生み出され、自らの日々の意思決定や将来設計に役立つ。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善工夫〕 2022/6(一部19年と20年) (1) 授業評価に関する全体的な印象 授業中の真剣な態度とアンケートの設問(全11項目)に対する前向きな回答とがほぼ一致していたので、嬉しい限りです。より達成感のある授業を目指すために、以下の5点について、確認し、より明確化し、受講生とともに、共有化したいと思います。 ① 問1(授業内容はシラバスと合っているか)について：シラバスはあくまでもガイドライン(昨年度の実績ベース)であり、授業は、キャッチボールしながら学生たちと共に創っていくスタイルなので、シラバス自体が毎年カイゼンされることを了解願いたい。 ② 問2(成績評価の基準の明確化)について：最初の授業で明確に基準を提示するので、最初の授業を逃さないように。基本的には、<u>学習態度と学習成果を評価</u>する。具体的には、授業で実施する「共創空間」での貢献度(活動成果)と共創レポートによって評価する。 ③ 問3(質の高い授業内容)について：質の高さは、新しい知見が得られる達成度の高い授業を目指している。あるテーマについての固定観念から解放され多様な視点を身に着けること、また、ものごとの本質を捉える能力を磨くことに主眼を置いている(後述の学生から提起された改善の提案や要望の項目を参考)。 ④ 問9(学生の質問・相談への配慮)について：集中講義という性格から、短期間なので、授業中もしくは授業開始前や終了後に相談に乗ります。 ⑤ 問10(自習時間)について：集中講義なので、<u>講義を受講するにあたって予習する課題(事前学習)の時間と講義終了後に実施するレポート作成の時間(見込み)を「自習時間」と見做してください。</u> (この授業を通じて、開発の新たな意味の発見や、開発経済学の前提となる、いわゆる“合理的経済人”を問い直すことの大切さを参加者全員で体験・共有化することは、大学生活や就職だけではなく、必ず一生の宝となるはずです。) (2) 自由記載欄の学生の意見とそれに対するコメント(⇒の部分) 〔優れた点〕 ・学生の意見を尊重し、学生と共に授業を作り上げていくスタイルが他の授業にないオリジナルかつ面白い授業であると思います。考えることが苦手な私でも集中して興味深く取り込みました。 ・常に面白く、ジョークを交えながら、真面目に意見交換のできる質の高い授業を受けることができ、幸せでした。		

・ゼミで行っているディスカッションとは違う、ホワイトボードを使った共創マトリックスは、とても内容が濃く、新鮮でした。⇒「共創空間」を創るプロセスの中で、価値観の異なる他者と向き合うこと、そして自分と向き合うことができる。1人1人の自由意思が尊重され、自由を味わうことができる。新たな価値創造を体験できる。 ・共創マトリックスを使って、様々な意見を聴きながら、いろいろな見方ができる。 ・共創マトリックスを使って様々な設問（問いの発見）を考えていくことが非常に楽しかったし、勉強になったこと。問いを見つけたり、考え方を知ったり、自分にとって非常に貴重で有意義な時間を得ることができた。15回ではなく、30回の講義でもっと時間をかけて勉強したかったです。 ・（ビデオ教材の）映像を見てよりよく知ることができた。自分の価値観が変わった。 ・コミュニケーションを大事にしている点。楽しい！ ・なぜこの授業が集中講義なのかというくらい、みんなに受けて欲しい授業だなと感じました。 ・ホワイトボードなどを用いて、共創空間を考察するため、自分が教員になったつもりで積極的に参加できること。 （問題点） ・学生の数が少ないと意見の数も少ないので、もう少し人数が欲しかった。⇒是非、参加してみてください！！ （改善の提案や要望） ・（特になし） 以上 （学生に一言アドバイス） 1. アンケート調査の質問項目の9（オフィスアワー等）については、集中講義という短期間なので、講義時間や休憩時間で質問や相談に応じられるように工夫しているので、評価するときはそこを考慮してください。 2. また、質問項目の10（過当たりの自習時間）については、成果レポート（「共創レポート」という名称）を作成する時間も織り込んで自己評価してください。 3. 質問項目の1のシラバスと内容が合っているかという問いについては、これは教員が一方的にボールを投げるという前提となっている。しかし、本講義では、シラバス体も、「学生と共に創る」という点を評価しているので、どれだけ教員と学生間でキャッチボールされた内容となるのかを評価してみてください。	【教科書】（事前に配布予定） 大場裕之＋ライフスタイル研究会[2013]『「共創空間」で地球を旅しよう～ライフスタイルの再発見～』（Working Paper No.56）麗澤大学経済社会総合研究センター。
【指定図書】 ・渡辺利夫[2001]『開発経済学入門』東洋経済新報社。 ・大場裕之＋「共創空間」開発プロジェクトチーム[2015]『共創空間開発学のすすめ—知のイノベーションの新技术』麗澤大学出版会。 ・大場裕之＋ライフスタイル研究会[2015]『“共創空間”を開発することの学問的意義—「共創空間開発学」の構築を目指して—』（Working Paper No.68）麗澤大学経済社会総合研究センター。 ・大場裕之＋大場ゼミナール[2007]『学問力のすすめ—“活きた”学問を楽しむために』麗澤大学出版会。 ・田中拓男[2006]『開発論—こころの知性』中央大学出版部。 ・我妻和男編著[2005]『光の国・インド再発見』麗澤大学出版会。	【参考書】 授業時に必要に応じ提示
【前提科目】 なし	【学修の課題、評価の方法】（テスト、レポート等） ・コースプラン、内容などについての詳細は、授業の開始時に担当の教員から指示される。 ・事前学習として、配布されたテキストを読んで、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどをレポートにすることを課す。 ・授業中にディスカッションのために必要となる基本的知識を習得するためのクイズ形式の課題を毎回行う。 ・共創マトリックス手法を活用した全員参加型の授業を行うため、そのための予習・復習が必要となる。 ・ディスカッションによって得られた成果やさらなる問題・疑問について、発見メモを作成すること。 ・この講義を通じて最も関心を持ったことや役に立ったことについて発表するチャンスを用意する。 ・この講義の最後には、5日間を振り返る総括討論を予定している。 ・期末試験は実施せず、達成度（学習成果）を評価する「共創」レポートに置き換える。
【評価の基準及びスケール】 成績評価は、「共創空間」の体験に基づく、「共創＝スマイル」評価に基づいて実施する。「共創」評価は、達成度と社会貢献度という2つの基準によって構成される。評価基準のウェイト付けは、各々50%とする。 その詳細は以下の通り。 1. 達成度（60%） 1) テキスト学習メモ（A4サイズ：1～2枚程度） 2) 出席状況 3) 発見メモの提出（毎日の授業終了時、5回） 4) 「共創」レポート（「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの） 提出期限：2025年01月20日（予定） 2. 社会貢献度（40%）「社会」とはこの講義に参加した受講者への貢献を指す。 1) 「共創マトリックス（共有化ツール）」（マグネット使用）への参加 2) ディスカッション（ボールによるキャッチボール）への参加 3) プレゼン（事前課題プレゼンで始まり、振り返りプレゼンで終わる）	【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ・教員としてこの授業に取り組む姿勢 この科目は、開発経済学が前提としている人間モデルを問う新しい試みであるので、現行の学問の専門知識にのめりこまずに、問題を発見すること、関心を持つこと、高めることに主眼を置いている。また、“ラクする楽しみ”ではなく、“共に創造する楽しみ”を共有すること念頭に置いて取り組む。さらに、「共創空間」というスペースの中をタイムマシンの飛行機(?)に乗って、現在の地球だけではなく、過去と近未来の地球を飛び回ることによって、学生諸君一人一人の「よい(良い・善い)生活・人生」探しのためのヒントを提供したいと思っている。 ・学生への要望 対話形式、キャッチボール(ドッチボールではない)スタイルの講義なので、積極的な学生が望まれる。講義の基本方針に基づき、自由に意見を言える場なので、その主旨を十分理解し、各自が責任をもって参加すること。なお、「共創」レポートの書き方については、授業時に説明する。ただ単に知識を鵜呑みにせず、絶えず問うことを大切にほしい。また、楽(ラク)する楽しみではなく、“脳ミソに汗をかぐ”楽しみ方を是非発見してほしい。 【実務経歴】 該当なし

授業スケジュール(受講生のニーズに基づいて一部変更する可能性あり)	
DAY 1 (12/21) 旅立ち スマイル 1〜3 講 「共創空間」 の中で日本 からインドへ 旅立つ 束縛からの 自由を求め る希望の旅	テーマ1: 貧しき経済人を問題とする旅ー 開発経済学が前提とする“経済合理的人間”の貧しさとは？ 内 容: 経済合理的(損得で動く)人間の“貧しさ”を吟味する共創への旅によること！ ◎学問力のすすめ 気づいたこと、おやっと思ったこと、「問い」を発見する意欲が欠乏している？ この意欲の欠乏こそが、「貧しさ」の正体。従って、意欲だけではなく、様々な欠乏を探す旅となる。 わたしたちは、経済人ですか(自分を経済人と思ったときある)？ 好き・嫌い？ 経済人としての貧しさ(欠乏): 気づいている、それとも気づいていない？ ⇒貧しき経済人とは、「自分は正しい」として、他者軸の欠乏した自己中心的人間。 旅立ち: 関心のある経済人？ 音楽好きな経済人?? この経済人の「貧しさ」とは何?? ⇒「音楽」が共通ボール。好きな音楽・嫌いな音楽=よい音楽・嫌いな音楽? 「1+1=2?」の発見 ☆公立大学でのキャンパスライフ、楽しんでるか=ラクしているか? 「ラクして楽しむ」合理的な生き方がなぜダメなのか? テーマ2: 貧しき経済人がたどる人類の道とは？ 内 容: ⇒果たして“経済人”は束縛(貧困)の罠から脱出できるのだろうか? 経済人から「共創人」モデルへシフトし、「共創マインド」を持つことが脱出の糸口。 テーマ3: インド映画『きっと、うまくいく』(前半 85 分) を観て、貧しき経済人を探索する旅: 内 容: インド映画に登場する若い経済人の素顔を知り、関心を持つ=「問い」を発見すること。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 2 (12/22) 花 4〜6 講 インド: 自由から富を 求める飛躍 の旅	テーマ4: インド映画『きっと、うまくいく』(前半) を観て、自由と富を求める、貧しき経済人を考える旅: 内 容: 映画に登場する人物: どのような自由を求めているのか? ラクする自由には「落とし穴」がある? <楽しむ自由にも「落とし穴」がある?> ・自分たちに関わる重要な問い(=大学教育)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 大学(教育)とは点の取り方を教えるところ? 問い2: 大学(教育)は、人生の競争に勝つためのものか? 大学教育に対する見方において、どの自由を選ぶか? 自由を得ると、人は富を求めるのか? 経済的富: 「おカネがすべて」なのか? 夢を与える仕事とどう関連するのか? ―インド経済人を「鏡」として考える― 「人生は競争」なのか (欠乏ゆえに) どのような自由を求めているのか? 束縛からの自由、そして、富への自由。 カネがあれば何でも(買うことが)できる? 過去の時間と現在・未来の時間: 今の時間も? いのちや愛も? テーマ5: インド映画『きっと、うまくいく』(後半 85 分) を観て、富を求める経済人を観察する 内 容: 金持ちになりたい? ビジネス(経済的富の追求)は何のためなのか? インドからの答えとは? カネを稼ぐのが目的ではなく、稼いだカネを社会に還元すること(与える) テーマ6: インド映画『きっと、うまくいく』を振りかえって: 富を求める経済人を吟味。 内 容: インド映画『きっと、うまくいく』を観て、自分たちに関わる問い(成功者とは)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 人生の成功者は登場人物の中にいる? 問い2: 成功者とは金持ちなのか <エクセレント(優秀)な人生?> <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 3 (12/23) 自転車 7〜9 講 インドから ブータンへ: 富から自己 満足を求め る快楽の旅 無関心となる 暗闇の旅	テーマ7: インドからブータン: 幸福と自己満足を求める経済人を考える旅: “足るを知る”人間へ 内 容: ビデオ教材によって、幸福の国ブータンの経済人の素顔を知る 嵐、幸福の国ブータン、あるいはブータン幸福度調査を観て、共創する。 義務を守れば幸せになれるのか、「幸せ」は一時的なのか (便利になれば、幸せになれるのか) (参考)義務: タバコ禁止(義務)、伝統的民族服の着用の義務、森林保護の義務、建築デザインの規制(義務)など。仏教的幸福の方程式=財/欲望 ポント? ブータンの幸福感=日本人の幸福感(個人主義的)? ブータンは、自分+他者、現世+来世 御手洗瑞子(みたらい・たまこ)、[2012]『ブータン、これっていいのだ』新潮社。 ・ブータンの幸福観を受け入れられるのか、 テーマ8: ブータン幸福度調査に関するビデオをもとにキャッチボール 内 容: ブータンの経済人の幸福観を知ること。 心豊かであれば幸せとなるかもしれないが……今は幸せですか? 「心の豊かさ」を求めていますか? テーマ9: ブータンの経済人の幸福: 理想と現実とは同じなのか? 内 容: ブータン幸福度調査の結果をもとに、共創する。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 4 (12/24) アダムとエバ の誕生 10〜12 講 ブータン:	テーマ10: ブータンの経済人から: 「幸せはどこに?」 満足の中に? それとも愛の中に? 内 容: 「満足」する意味を考え、幸せとなるか否かという判断基準を明確にする。 (参考)「満足」する=精神的に満たされ、物質的に足りていること(仮説)。 テーマ11: 満足する生き方と「足るを知る」生き方: どちらの道を選ぶか 内 容: 満足する生き方の対極にある「足るを知る」生き方を明らかにする。 「足るを知る」生き方を実践すれば、愛欲から解放される? 愛と愛欲の違い。 自分を犠牲にしても愛したい「何か」を持っていますか? 自己愛の対極にある愛。 例えば、鶴のために自分の快適さ(欲望)を犠牲にしてもよいと考えるブータン人のように。 テーマ12: 「自己満足すれば、幸福になれるのか? 自己満足すると、無関心となるのはなぜ? <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 5 (12/25) 帰還 川はなぜリッ チ? 13〜15 講 インド・ブ ータンから の帰国 「心の貧しさ」 (束縛)と自我 からの解放 の旅	テーマ13: インド・ブータンからの帰還: 貧しき経済人が人生に求めてきたもの: 自由・富・満足する生き方: その行きつくところとは、無関心と束縛。では、貧しき経済人は、何を求めて生きればよいのだろうか? 「病者の祈り」にみる祝福された貧しき経済人にそのヒントがあるのでは。 内 容: 経済人は何を求めて生きているのか? 経済人は、ほんとうの自由、ほんとうの豊かさに出会えるのだろうか? 科学的アプローチと宗教的アプローチを問う: 真理はどこにあるのか? 真理は体験して知るものでは? テーマ14: 「カイゼン」と「シュガード」を実践する (経済人ではなく) 共創人を目指して 内 容: 心貧しき者経済人にとってのよき知らせ。共創空間に秘められた宝を明らかにし、共有化する。 テーマ15: 貧しき経済人をめぐる共創の旅の総括: 内 容: 映画でみる急成長するインド・幸福の国ブータンから、どんなメッセージを得たのか? 「共創」の視点から、その人間観、特に貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断軸(共創マインド): 身についたと思いますか? 自分の生き方にインパクトがあったのか? 共創の旅からのプレゼント: 1 + 1 = 9 (の宝) ・「貧しき経済人をめぐる共創レポート」作成にあたっての確認 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>